働處の舟は、沖網には、獵船の中の大船二隻を用、内に絞車(ロクロ)を立、船に碇おろし、うごかざる樣にして、絞車をまいて兩船より是を引、小船は網の廻りに有て、舷をたゝき、又竹にて水面を打、魚をしてにげざらしむ、是漢に長狼後に鳴と云者なり、其外皆小船を用、獵船と云は、大船小船によらず、河海江湖ともに、漁獵する船の總名也、

〔享保集成絲綸錄四十二〕寶永四亥年三月

覺

白魚漁船明松筛火を燈し、川筋江大分集候樣に相聞候、川筋船込候而は、往來之船之障にも可成候、左樣に無之樣に、其上明松筛火も大分燈し候而は、火之元のため、旁に而候間、向後大分不出樣可相心得候、尤相止渡世之障に不成樣、可被申付候、以上、

三月

〔諸造船式圖〕獵船

上口凡長二丈一二尺ヨリ三丈一二尺マデ、横五六尺位、

但、形小サキヲ小獵船ト云、

深川、佃島、行德邊、其外海附ニ有之、

〔夫木和歌抄三十三船〕寶治二年百首　衣笠內大臣

いさり舟

うなばらやなぎたるあまのいさり舟おきのすさきにこぎまはりみゆ

〔和漢船用集六河海江湖獵船〕罨罩(エンタク)舟　字彙曰、罨從上掩之網也、或謂之撒網、和名宇知阿美、江湖池川に多く是を用、小船にして網をうちて魚を取舟也、今唐網船と云、網打舟と呼、一人船の首に居て網を打、一人ともに居て棹さす、是を楫子と云、或は四ッ足日覆をして、天幕を張、遊興に用、